

左近山小高小学校・左近山第一小学校・左近山第二小学校 小規模校対策検討委員会ニュース 第2号

発行日：平成23年12月19日

発行：検討委員会事務局

第2回検討委員会 開催

■日時 平成23年11月26日（土）10時00分から

■場所 左近山第一小学校ふれあいホール



決定事項等

- 小規模校の現状について、確認しました。
- 小規模校対策として引き続き左近山第一小と本宿小の学区変更について検討することを決定しました。そのため、次回検討委員会に本宿小PTA、校長を検討委員会にお呼びします。
- 次回、統合した学校の校長先生から話を聞くことにしました。



1 小規模校の現状について

(1) 3校の現状

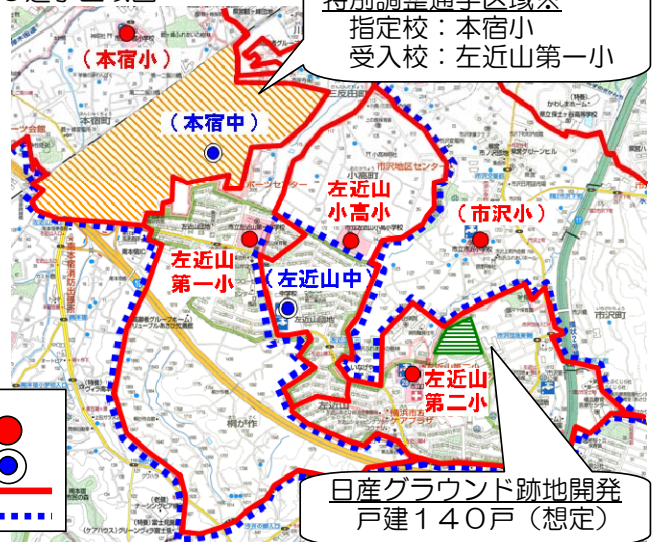
(事務局より説明)

●3校の今後の推計

		H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	普通教室数
左近山小高小	児童数	156	149	148	143	125	126	125	18
	学級数	6	6	6	6	6	6	6	
左近山第一小	児童数	299	295	289	288	289	275	258	19
	学級数	11	11	11	11	12	11	11	
左近山第二小	児童数	287	307	314	317	319	310	334	19
	学級数	11	11	11	11	11	11	11	

(平成23年度は実数値。平成24年度以降は、平成23年度義務教育人口推計による推計値)

●通学区域図



【凡例】

- 小学校.....●
- 中学校.....○
- 小学校通学区域.....
- 中学校通学区域.....

(2) 通学区域内の児童数

左近山第一小

特別調整通学区域(※)を設定しているため、現在の児童数になっていますが、設定していなかった場合、児童数はさらに減少していました。

●現在の推計

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
児童数	299	295	289	288	289	275	258
学級数	11	11	11	11	12	11	11

●本宿小との特別調整通学区域を設定しなかった場合の推計

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
児童数	245	239	232	232	238	231	218
学級数	11	11	9	9	9	9	8

※ 特別調整通学区域

本宿小の通学区域内(地図上の網掛け部分)に、本宿小と左近山第一小のいずれかを選べる区域が設定されています。(入学先の学校の選択肢が増える制度で、設定区域内の保護者が、入学時に指定校と受入校のいずれかを選択できる区域)

左近山第二小

開発が無い場合、児童数は減少していきます。

●現在の推計

日産グラウンド跡地の開発(戸建140戸想定)を含む推計

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
児童数	287	307	314	317	319	310	334
学級数	11	11	11	11	11	11	11

●日産グラウンド跡地の開発を除いた推計

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
児童数	287	261	262	258	253	236	253
学級数	11	10	10	10	10	10	11

3校

上記以外にも、通学区域外から3校に通っている児童がおり、実際の通学区域内から通っている各校の児童数は以下のとおりです。

●通学区域内から通学している児童数とその場合の学級数(平成23年5月1日現在)

	左近山小高小	左近山第一小	左近山第二小
児童数	136	232	209
学級数	6	10	7

●学校の現状について3校長からの話

子どもたちについて

子どもたちが少ないという良さは、まとまりのよさに一番良く出ているかと思います。まとまりのよさは子どもたちの落ち着きにも表れており、とても心が安定していると感じます。そういう落ち着きは、緊密な人間関係からきていると思います。

学習面では、一人ひとりの子どもに目をかけ、手をかけという指導が充実しやすいという良さがあると思います。同時に人数の少ない難しさもあります。落ち着きという点について別の見方をすると、少し活気が乏しいという気がします。また、単級（1学年1クラス）ですと、クラス編成を行うことができませんので、人間関係が一度こじれた時に、難しい面があります。子どもの固定した見方は、なかなか変えられません。「この子はこういう子なんだ」という固定した見方が6年間続くというのは、厳しいと感じることはあります。それから、いろいろな刺激が少ないということが、どうしても出てきてしまいます。もちろん学校教育の中、いろいろ工夫していますが、職員も限られており、子どもたちも同じメンバーの中で、新しい発想がなかなか生まれにくいと感じています。

学校行事について

運動会では、教職員の人数が少ない中で、役割を割り振り、準備をしています。しかし、それだけでは当然人数が足りないので、PTA役員の方にも、前日から当日まで役割を分担していただくことで、協力して1つの行事ができています。状況です。みんなの力でつくりあげているということで、小規模校の良さがありますし、地域の方と作り上げていることがよくわかります。

運動会の種目については、子どもたちが少ない関係で、低・中・高学年というように2学年が一緒に演技をしています。子どもたちがふれあいながら進めておりますが、種目が低・中・高学年なので、子どもたちが出場する機会が多くなります。また、4年生からは、係の仕事や、さらに応援団、リレーの選手などが加わると、ほとんど席にいない状況です。子どもたちは、このような状況が当たり前になっているのですが、じっくり腰を据えて他の演技を見て、楽しむ状況は少ないと思います。

学校経営について

学校の校務について、小規模校は小規模校なりに様々な工夫をしながら、先生たちの知恵を寄せ集め運営しています。人数が少ないので、先生方に声をかければ、話を通じ、すぐ動くことができます。ただ、そういう反面、先生方が日々忙しそうだと感じています。区の研究会というのがあり、学校代表として各学校から必ず誰か参加しますが、適正規模校では分担できますが、規模が小さい学校では、一人で何役も受け持つことがあります。担当の教員が、研究会へ参加し、研究テーマにあったものを各学校に下ろしてきて、取り組むことを考えると、本校の教員は、倍の仕事をしてるのだと思います。また、当然毎日目の前にいる子どもたちと一緒に向き合う時間、子どもたちに関わる時間、ノートを見たり、テストの丸付けをする時間、子どもたちの話を聞いたりという時間もあります。先生方は上手にやっていますが、遅くまでかかっているところを見ると、苦労してるというのを感じています。

小規模校に来て「専科非常勤」という言葉は初めて聞きました。例えば音楽など専門的な教科を教えるために、専科の教員が配置されるのですが、小規模校だと正規の教員が付かず非常勤です。それに驚きました。また、一番不公平感があると思ったのは、栄養士の配置です。小規模校は栄養士が配置されません。栄養士の方には週1回来ていただいています。食の教育について残念だとも思います。

2 小規模校対策について

(1) 小規模校対策の方法 (事務局より説明)

「横浜市立小・中学校の通学区域制度及び学校規模に関する基本方針」（抜粋）
通学区域の変更・弾力化等が実施できない場合や実施によっても小規模校が解消しない場合については、学校の統合について検討を進めることとする。

(2) 学区変更による小規模校対策について

ア) 周辺校の概要について

	本宿小学校	市沢小学校
開校年度	昭和33年 (53周年)	明治6年 (138周年)
親校	二俣川小学校	—
建築基準年度	昭和44年度 (築41年)	昭和45年度 (築40年)
小中一貫ブロック	本宿中 本宿小、左近山第一小	西谷中 市沢小、鶴ヶ峯小、 川島小、くぬぎ台小
その他	・地域防災拠点	・地域防災拠点

●推計値（平成23年度義務教育人口推計より）

		H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	普通教室数
本宿小	児童数	726	714	688	707	698	706	719	25
	学級数	22	21	20	20	20	20	21	
市沢小	児童数	382	384	381	392	394	404	406	15
	学級数	12	12	13	12	12	13	12	

イ) 学区変更による小規模校対策の可能性

左近山小高小

市沢小学校の一部を左近山小高小に学区変更した場合



市沢小学校が小規模校となるため学区変更での小規模校対策は困難

左近山第二小

市沢小学校の一部を左近山第二小に学区変更した場合



市沢小学校が小規模校となるため学区変更での小規模校対策は困難

左近山第一小

◎特別調整通学区域の選択実績(平成23年5月1日現在)

	計	割合
本宿小(指定校)	223	80.5%
左近山第一小(受入校)	54	19.5%
計	277	100.0%

◎学区変更のメリット・デメリット

メリット	・左近山第一小が適正規模校になる
デメリット	・児童の通学距離が長くなる場合がある ・児童・保護者ニーズとのズレ(特別調整通学区域の選択状況から) ・地域コミュニティが分断される

◎本宿小の特別調整通学区域部分を左近山第一小に学区変更した場合の推計

		H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
左近山第一小	児童数	299	295	320	354	379	400	415
	学級数	11	11	12	12	13	14	14
本宿小	児童数	726	714	658	643	611	584	564
	学級数	22	21	19	19	17	17	17



議論の結果、次回検討委員会で引き続き本宿小学校の学区変更について検討することが決まりました。

(3) 学校統合について

ア) 学校統合のメリット・デメリット

学校統合による成果と課題を調べるため、平成20年度までに学校統合を実施した学校を対象に聞き取り調査を行いました。

問1 学校統合による良い影響

- <児童生徒>
- 友人関係が広がり、子どもの生活が豊かになり、社会性を育てる環境が充実した。
 - 運動会などの行事が活発になった。
- <教職員>
- 多くの職員で意見交換できるようになり、広い視野で考えられるようになった。
 - 教職員増により多面的で充実した教育がなされ、学校としての教育力、教職員の指導力向上に繋がった。
 - 一人でいくつもの校務を担当することなく、分担できるようになった。
- <PTA・保護者>
- 保護者の輪が広がり、PTA活動も活発になった。
 - 当初は旧校の取組に固執する場面もあったが、子どもが楽しく学校生活を送っていることを知ることで、協力体制が生まれた。

問2 学校統合による問題・課題

- <児童生徒>
- 新校での生活に馴染めない子どもや、新しい人間関係をつまづ構築できない子どもがいた。
- <教職員>
- 新校としての教育方針が定まり、定着するには時間がかかった。
 - 学校行事の整理が難しく、統合前の各校の行事が展開されてゆとりがなくなった。
- <PTA・保護者>
- 学校統合当初、PTA活動の一本化が難しかったので、旧校のPTA役員に新校でも役員をしてもらうなどして、調整しながら取り組んだ。
 - 新体制に不満を持つ保護者がいたが、きめ細かな情報提供を心がけ、1年ほどで落ち着いた。

検討委員会での主な質問・発言 【凡例】 ☆・・・検討委員、→・・・事務局

【本宿小の特別調整通学区域部分を左近山第一小に学区変更した場合について】

- ☆ 特別調整通学区域にお住まいで左近山第一小を選択した保護者の方が、なぜ第一小を選択しているのかというご指摘が前回ありましたので、対象の45世帯に対しアンケート調査を行い、38件の回答をいただきました。結果として、一番多かったのが、距離が近いという回答で22件ありました。距離が近いことに関連し、通学路が安全だからという理由が16件あります。あとは、少人数指導があるからという回答が、距離が近いという回答に次いで多く18件の回答をいただいております。少人数だから選んだといいながら、この内1件の方は、2クラスは不満と追加されています。多すぎるのも少なすぎるのも嫌という、正直な親の気持ちが出てきたアンケートになっております。ただ本宿小のプレハブは嫌という回答が非常に多く挙がっております。また、生活圏が第一小側という方も多く、第一小を選ぶ方が年々増えております。

- ☆ 学区変更のデメリットの中で、地域コミュニティが分断されるとありますが自治会はどのように考えていますか。
☆ 私個人の意見では決められません。子ども会にも影響してきますので、自治会の役員たちと話し合う必要があります。

- ☆ 特別調整通学区域に指定されているところがありますが、なぜこんな遠くまで、本宿小に通わせる学区にしたのでしょうか？
- ☆ おそらく左近山第一小の整備にあたって学区を決めたとき、これ以上学区を広げると第一小に入りきらないような状況だったと思われます。
- 左近山第一小学校は、昭和44年に、本宿小学校は、昭和33年に開校しています。新しく学校を整備する際、学区については自治会・町内会の皆様と、学校の規模や人数を踏まえて決定しました。
- ☆ 学区変更により学校が分かれてしまうと、子ども会等をまとめるのが、大変だと思います。町内会としては1校にまとめてほしいという要望もあるのではないかと思います。
- ☆ 特別調整通学区域から本宿小へ行く人が多いと思いますが、本宿小のPTAが検討委員会に入っていないのは、どうなのでしょう。
- 次回、本宿小の学区の見直しを検討するのであれば、ご参加いただくことは可能です。
- ☆ PTAの方もいろいろと関係してくると思うので、本宿小の方に来ていただいて、発言する機会があったほうが良いかと思います。
- ☆ 今回、左近山第一小で特別調整通学区域の選択理由についてアンケートを行いました。逆に本宿小の方に、どのような理由で本宿小を選択されているのかを聞いてみたいです。
- ☆ 次回は、左近山第一小の学区についての話し合いをしてみましょう。そのためには本宿小のPTAと校長に出てもらいましょう。
- それでは次回の検討委員会には、本宿小の校長先生とPTAの代表の方に来ていただけるよう調整します。
- ☆ 仮に学区変更の話がまとまり、左近山第一小が適正規模校になった場合、左近山小高小と左近山第二小の統合という話になるのですか。
- ☆ そこまではまだ決まっていません。あわせて学区変更というのが、本当にそれだけでいいのかを検討し、全体の中で考えていくということにすればいいと思います。

【聞き取り調査について】

- ☆ 聞き取り調査のところで、それぞれ統合後の何年後に聞き取り調査をしたのかを教えてください。また、聞き取り調査をしたそれぞれの学校の対象人数を教えてください。
- 平成22年度に、主に教職員や校長に聞き取り調査を行いました。

【統合した学校の話について】

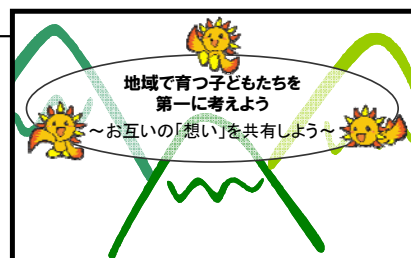
- ☆ 次回、統合した学校の話聞いてみるのはいかがですか。
- ☆ 統合して何年かたった後の学校がいいのではないのでしょうか。
- 統合してからの期間や、統合の前後を経験した校長もおります。いただいたご意見を参考に、持ち帰って、調整させていただきます。

【その他】

- ☆ エルフィーノのマンションができて左近山第二小にはどれくらいの子どもの数が増えたのですか。
- ☆ 児童数は多いのですが、入居したご家庭は、元々団地から移られた方が非常に多かったため、あまり増えませんでした。
- ☆ 本宿小と左近山第一小を選べる特別調整通学区域は、なぜ設定されたんですか。
- 本宿小学校の学区から第一小に通いたいというご要望を踏まえ、特別調整通学区域を設定させていただきました。
- ☆ 基本的な考え方に「子どもを第一に考えよう」とありますが、子どもや学校のためにこの問題が出ているのか、あるいは学校予算の関係から考え出ているのか。まだ整理が付かないのですが。
- 小規模校には、いろいろな課題があると考えております。その課題を解消して、適正規模化することで子どもたちにとってより良い教育環境を作っていくことが一番の目的です。

【第3回検討委員会の日程】

- ★平成24年1月21日(土) 10時から 左近山第二小学校にて
- ★検討予定内容(案)
 1. 小規模校対策について
 - (1) 学区変更について
 - (2) すでに統合した学校について
 2. その他



「左近山小高小学校・左近山第一小学校・左近山第二小学校小規模校対策検討委員会」の経過、横浜市の基本方針等はホームページでもご覧になれます。

- ・基本方針など <http://www.city.yokohama.lg.jp/kyoiku/kyoiku-info/gakku-houshin.html>
- ・左近山小高小学校・左近山第一小学校・左近山第二小学校小規模校対策検討委員会 <http://www.city.yokohama.lg.jp/kyoiku/gakku/shoukibo/sakonyama.html>



「左近山小高小学校・左近山第一小学校・左近山第二小学校小規模校対策検討委員会」では、皆さまからのご意見を受け付けております。FAXかEメールにて、事務局(学校計画課)までご連絡ください。

*「左近山小高小学校・左近山第一小学校・左近山第二小学校小規模校対策検討委員会」事務局(学校計画課)

TEL:045-671-3253 FAX:045-651-1417
Eメール:ky-sakonyama@city.yokohama.jp

旭区のキャラクター
あさひくん

